

歴史民俗資料学研究科 歴史民俗資料学専攻

博士前期課程

教育研究上の目的

本研究科の博士前期課程は、歴史民俗資料学について、広い視野に立つ専門性豊かな調査・研究能力を身に付け、その能力、知識及び技能を教育・研究をはじめ様々な領域で発揮できる人材の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的等を踏まえ、歴史民俗資料学研究科歴史民俗資料学専攻前期課程では、国際的視点を踏まえた日本列島の歴史と文化に関して、歴史資料学・民俗資料学を柱とした体系的なカリキュラムに基づき、新たな研究領域を開拓する総合的な資料学に関する専門教育を展開し、広い視野に立つ専門性豊かな能力を発揮できる人材を育成することを教育目標とします。

日本社会を究明するには、歴史学・民俗学の学問分野からのアプローチは不可欠であり、その研究の基礎には必ず資料が存在します。その資料を適切に扱い活用する学問分野として、本研究科は資料学という新しい学問領域の開拓を目指しています。院生に対する教育と研究は、本研究科の設立基礎である神奈川大学日本常民文化研究所及び非文字資料研究センターと密接に連携して行われ、資料の調査・収集、修復・保存、分析方法などに関する実践的な知識と技能を身につけ、地域社会の文化活動や地域文化の継承・育成にあたる高度専門職業人を養成することを教育目標として定めます。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本専攻博士前期課程において所定の単位を修得し、提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、以下の能力を身につけていると判断し、修士（歴史民俗資料学）の学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

- (1) 歴史民俗資料学に関する専門的な知識と調査・研究能力を修得している。
- (2) 調査・研究に伴う資料の調査・収集、修復・保存などに関する実践的な知識と技能を習得している。
- (3) 地域社会の文化活動や地域文化の継承・育成にあたる幅広い知識と能力を身につけ、社会に貢献できる素養を備えている。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

- (1) 歴史民俗資料学に関する専門的知識と技能をもって、国際社会に貢献しうる能力を修得している。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

- (1) 歴史資料・民俗資料を適切に扱う技能を身につけ、その資料を分析して日本社会の特質を究明する調査・研究能力を修得している。
- (2) 歴史資料・民俗資料の総合的な資料学の分析を基礎とした専門的な知識を身につけ、高度専門職業人として必要不可欠な能力を修得している。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本専攻博士前期課程では、歴史民俗資料学について、広い視野に立つ専門性豊かな調査・研究能力を身に付け、その能力、知識及び技能を教育・研究をはじめ様々な領域で発揮できる人材の育成を目的として、以下のようなカリキュラム・ポリシーを設定しています。

1. 教育課程の編成・実施

- (1) 歴史資料学・民俗資料学を柱とする総合的な資料学を学修できる多様な科目が設けられている。
- (2) 高度専門職業人の養成に対応して、博物館学関連の科目群とともに、歴史民俗資料学に関連する多様な科目が設けられている。
- (3) 社会人や留学生など多様な院生の種々な状況に対応するため、学修において Semester 制をとり、さらに秋季入学制度・長期履修制度を設けている。

2. 教育の方法と評価

- (1) 実技実習と調査実習を重視することで、歴史民俗資料を扱う技能や調査方法を実践的に習得できる。
- (2) 教育・研究は本学付設の神奈川大学日本常民文化研究所や非文字資料研究センターと密接に連携して行われ、院生は研究所やセンターが主催する研究会や調査に参加する機会を有し、また研究所の所蔵資料を利用することができる。
- (3) 上記研究所等の海外提携大学への短期留学の機会を有し、国際的な視野に立った歴史民俗資料学の学修ができる。
- (4) 修士論文の作成過程において、論文演習の一環として全教員・全院生が参加する年2回の中間報告会を設け、プレゼンテーション能力を高めるとともに、集団指導のもと高度な専門性と学際性を持った論文作成能力を養える。
- (5) 修士論文の審査には、3名の教員があたり、口頭試問を実施する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって養う能力

- (1) 歴史民俗資料学について、広い視野に立つ専門性豊かな調査・研究能力を修得する。
- (2) 歴史民俗資料の調査・収集、修復・保存などに関する実践的な知識と技能を修得する。
- (3) 教育職員専修免許（中学校社会・高等学校地理歴史）を取得し、あるいは学芸員としての専門性を高めることで、歴史民俗資料学に関連する高度な専門職に就けるようにする。

2. 本専攻の求める入学者像

- (1) 歴史民俗資料学に関する高度で専門的な学識の修得を目指す人
- (2) 国際的視野を持って日本列島の歴史と文化に関し、新たな研究領域を開拓する意欲を持っている人
- (3) 歴史民俗資料学の手法をもって現実社会の諸問題に対応できる能力を高め、技能を修得したい人

3. 大学までの能力に対する評価（選抜方法）

- (1) 「一般入試」「外国人留学生入試」「社会人特別入試」では、歴史学・民俗学等、歴史民俗資料学を学修するうえで必要となる専門分野の基礎学力や能力を備えているかを判断する。
- (2) 外国人留学生に対しては「指定校推薦」も行っている。
- (3) 指導教員が推薦した者については本人の申請により筆記試験を免除する「特別選考」を行っている。

歴史民俗資料学研究科 歴史民俗資料学専攻

博士後期課程

教育研究上の目的

本研究科の博士後期課程は、歴史民俗資料学について、広い視野に立つ専門性豊かな調査・研究能力、知識及び技能をさらに向上させ、創造性豊かな教育・研究活動を行うことのできる研究者の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的等を踏まえ、歴史民俗資料学研究科歴史民俗資料学専攻後期課程では、国際的視点を踏まえた日本列島の歴史と文化に関して、歴史資料学・民俗資料学を柱とした歴史民俗資料学に関する高度な専門教育を展開し、日本文化を世界に発信し国際的に活躍する研究者の育成を教育目標とします。

日本社会を究明するには、歴史学・民俗学の学問分野からのアプローチは不可欠であり、その研究の基礎には必ず資料が存在します。その資料を適切に扱い活用する学問分野として、本研究科は資料学という新しい学問領域の開拓を目指しています。院生に対する教育と研究は、本研究科の設立基礎である神奈川大学日本常民文化研究所及び非文字資料研究センターと密接に連携して行われ、専門的な調査・研究能力及び学際性をもった論文の作成能力、プレゼンテーション能力を涵養し、歴史民俗資料学の新たな領域を開拓する研究者を養成することを教育目標として定めます。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本専攻博士後期課程において所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、以下の能力を身につけていると判断し、博士（歴史民俗資料学または学術）の学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

- (1) 歴史民俗資料学の研究分野において、新たな領域を開拓する創造的な研究者としての能力を修得している。
- (2) 歴史民俗資料学に関する専門的知識と技能をもって、現代社会に貢献しうる能力を修得している。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

- (1) 歴史民俗資料学の研究分野において、国際的に通用する高度の専門的な調査・研究能力を修得している。
- (2) 歴史民俗資料学の研究成果を、論文等で国際的に発信しうる能力を修得している。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

- (1) 歴史資料・民俗資料を適切に扱う技能をさらに深め、その資料を分析して日本社会の特質を解明する専門的な調査・研究能力を修得し、大学・研究機関などの教育・研究活動に携わる能力を備えている。
- (2) 歴史民俗資料学に依拠した高度で知的な学識を修得し、その専門的な研究を社会へ還元できる能力を備えている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本専攻博士後期課程では、歴史民俗資料学について、広い視野に立つ専門性豊かな調査・研究能力を身に付け、その能力、知識及び技能を教育・研究をはじめ様々な領域で発揮できる人材の育成を目的として、以下のようなカリキュラム・ポリシーを設定しています。

1. 教育課程の編成・実施

- (1) 歴史資料学・民俗資料学を柱とする総合的な資料学に関する高度な専門教育を受けることができる。
- (2) 社会人や留学生など多様な院生の種々な状況に対応するため、 Semester制をとり、さらに秋季入学制度を設けている。

2. 教育の方法と評価

- (1) 教育・研究は本学付設の神奈川大学日本常民文化研究所や非文字資料研究センターと密接に連携して行われ、院生は研究所やセンターが主催する研究会や調査に参加する機会を有し、また研究所の所蔵資料を利用することができる。
- (2) 上記研究所等の海外提携大学への短期留学の機会を有し、日本の歴史と文化を世界に発信し国際的に活躍できる研究者を養成することができる。
- (3) 上記研究所等が行う共同研究の研究協力者や TA(ティーチング・アシスタント)などに就くことで、教育・研究指導者としての経験を積むことができる。
- (4) 学位論文作成指導の強化を図るため論文演習の一環として全教員・全院生が参加する年1回の中間報告会を設け、プレゼンテーション能力を高めるとともに、集団指導のもと、より高度な専門知識と学際性を持った論文作成能力を養える。
- (5) 学位論文の作成過程において、予備審査論文の提出を求め、3名の教員が事前審査を行っている。
- (6) 学位論文の審査は、3名の学内教員および必要に応じて学外の専門家を加えて口頭試問を実施している。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって養う能力

- (1) 歴史民俗資料学について、広い視野に立つ高度で専門性豊かな調査・研究能力を修得する。
- (2) 既存の枠組みを超えて、歴史民俗資料学の新たな領域を開拓する創造的な調査・研究能力を修得する。

2. 本専攻の求める入学者像

- (1) 歴史民俗資料学に関する、より高度で専門的な学識の修得を目指す人
- (2) 国際的視野を持って日本列島の歴史と文化に関し、新たな領域を開拓する意欲を持っている人
- (3) 研究者となり、歴史民俗資料学を中心とした教育・研究活動や文化活動により、社会に貢献したい人

3. 博士前期課程までの能力に対する評価（選抜方法）

- (1) 「一般入試」「外国人留学生特別入試」では、歴史学・民俗学等、歴史民俗資料学を学修するうえで必要となる専門分野の学力や能力を備えているかを判断する。
- (2) 外国人留学生に対しては「指定校推薦」も行っている。